

令和3年度第2回食育推進評価専門委員会

農林水産省

午前10時01分 開会

○前田参事官（農林水産省） 定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第2回食育推進評価専門委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しいところ、御参集いただきまして大変ありがとうございます。司会を務めさせていただきます農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課参事官の前田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、江崎審議官から一言御挨拶をさせていただきます。

○江崎審議官（農林水産省） おはようございます。農水省の審議官の江崎でございます。

それでは、着座して御挨拶させていただきます。

今日は、朝からお集まりいただきましてありがとうございます。

委員の皆様方におかれましては、食育の推進に日頃から御尽力いただいておりますことに対して、厚く御礼申し上げます。

本日は、関係省庁の今年度における食育関連施策の取組状況、それから目標値の達成状況、これらの報告をさせていただきます。

また、前回の評価専門委員会におきまして、皆様から御了承いただいて、ずっと取り組んでまいりました「食育目標達成に向けた取組の「見える化」ワーキンググループ」からの報告を頂く予定となっております。

今年度は、御案内のとおり、新しい第4次計画の初年度となっております。委員の皆様方には、今回の報告内容や食育のピクトグラム、デジタル食育ガイドブックを含め、計画に基づきます食育の推進に向けて、これから弾みとなっていくというようなことといたしまして、御意見を頂ければというふうに思っております。

それから、今日、バッジを付けております。これは服部座長の御尽力によりまして、作成しましたので、御紹介をさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○前田参事官（農林水産省） カメラ撮りにつきましてはここまでとさせていただきます。

それでは、審議に入る前に配付資料の確認をさせていただきます。

お手元の配付資料につきまして、各資料については、オンラインの参加の方につきましては電子媒体で事前にお送りをさせていただいております。配付資料でございますけれども、資料1-1、それから1-2、1-3、2-1、2-2、資料3、4及び参考資料が3種類、1-1、1-2及び2となっております。資料1につきましては、別添として1

から4までの資料が付いております。参考資料につきましては、1－1、1－2として、令和4年度の食育関連予算案をまとめております。

電子媒体でお送りしているものですが、配付資料につきまして、不足がありましたらチャット機能を用いて事務局までお知らせください。いかがでしょうか。

特にないようですので、続いて出席の委員の方々の御紹介に移させていただきます。

本日は、服部座長及び武見座長代理以外の出席委員の皆様方はオンラインでの出席となっております。

また、本日、河井委員、田中委員、陳委員、有田委員、樽井委員、中澤委員、堀切委員が所用により御欠席となっております。

会議の進行ですが、御発言の際は挙手のマークをクリックしていただきます。司会より御指名いたしますので、その後、御発言を頂きますようお願い申し上げます。

それでは、恐縮ではございますが、服部座長に以後の司会をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

○服部座長 それでは、これより私の方で進行させていただきます。

委員の皆様には、オンラインでございますけれども、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、議題（1）について、事務局より説明を願いたいと思います。

○前田参事官（農林水産省） それでは、事務局から議題1、第4次食育推進基本計画の各目標に対応する取組の「見える化」について、御説明をさせていただきます。

前回の本会議におきまして、皆様より御了承いただきまして、食育目標達成に向けた取組の「見える化」ワーキンググループを開催いたしました。その報告書が資料1－1となっております。

資料1－1の報告書の内容につきまして、ワーキンググループの座長を務めていただきました武見座長代理より御報告を頂きたいと思います。

武見座長代理、よろしくお願いいたします。

○武見委員 はい。承知いたしました。武見でございます。

それでは、資料1－2という報告書の概要をまとめたものがございますので、それを使って簡単に御報告させていただきます。

まず資料1－2のところ、画面共有をお願いいたします。1ページ目を御覧いただきたいと思います。

このワーキンググループですけれども、この食育推進評価専門委員会の委員の皆様が所属されている事業主体・学術団体等に協力を依頼して取りまとめを行ってきました。

上の「はじめに」のところの赤字にありますように、第4次食育推進基本計画の目標に関連してどのような取組がどのくらい実施されているかを少しでも定量的に把握してみようという、そういう取組として今回調査を行いました。

下の枠の方を御覧いただきたいんですけれども、事例収集の方法は今申し上げたとおり、この委員会に所属されている皆様の所属団体等にお願いしました。正直、個人的には予想を超える取組事例の数が集まりました。総数583、取組主体数として245の取組が報告されました。皆様の御協力、ありがとうございました。

その内容を、その下の図にありますように、左側の図ですね、取組の種類、どのような取組か。それから、訴求対象として年代とか立場。そして、一番右側に4次計画の目標に関連してどのような取組かという、そういう整理をさせていただいております。

次のページをお願いいたします。

この「見える化」に当たっては、上の枠ですけれども、2つの視点が必要ということで、まずは食育を推進してくださっている食育関係者の創意工夫ができるだけ見えるようにしていくこと、引き出すことですね。それから、2つ目として、食育に関心を持って行動してくださる国民が少しでも増えるように、この結果を国民に分かりやすく情報発信をしていくと。この2つの視点で、どうまとめていくかということを検討させていただきました。

結果として、先ほど、前のページにもありましたように、少なくとも取組の種類と訴求対象と狙いとする目標、そういうものが整理される形で、下の方のイメージの図がありますけれども、食育推進ネットワークの中でそれぞれの取組を具体的にお見せしていくというような形を考えております。

次のページをお願いいたします。

非常に細かい表なんですけれども、4次計画の目標が縦に表側に並んでおりまして、表頭は訴求対象です。そうすると、どの目標、例えば、朝食の欠食とかいうことに関して、子供ならどのぐらいの件数があるのか、それはどんな取組なのかということを知りたい人が簡単に探せるようになり、その内容も具体的に知れる。そういうような情報提供、情報発信をしていこうということを考えております。

次のページをお願いいたします。

今後の進め方としては、この食育の全国食育推進ネットワークの中でこうした情報発信

を積極的に分かりやすく行っていくと同時に、その食育推進ネットワークのウェブサイトで、上の枠の2つ目の白丸ですね、全国食育推進ネットワークのウェブサイトでは4次計画の目標達成に向けたコミットメント、つまり、自分たちの組織としてどのような取組をやっていくのかという宣言をしていただく、そういう表明をできる仕組みを検討して、各主体が食育の取組をどのような視点で推進・改善しようとしているかということを全体で示していただく。それによって、その主体の社会的評価、そういう取組をやってくださっている団体だという評価を向上したり、それを通じて更なる食育取組の展開・マッチングの機会の拡大と書いてありますけれども、一つの組織ともう一つがつながることで、更に食育の幅を広げたり質を高めたり、そういうような機会を作っていくということに、この情報発信を生かしていくと。そういうような仕組みができるようなことに活用していけたらということ考えております。

コミットメントについては、報告書の方の資料の16ページ辺りを御覧いただきますと、東京栄養サミットでも様々な団体、もちろん国もですし、コミットメントを発表するということで、栄養改善に向けてのコミットメントをたくさん出されました。

委員の皆様、お手元にあつたら、そこを後で見ただけだと思いますけれども、そのコミットメントの作成に当たっては、SMARTの要素をできるだけ含めましょうということが言われております。全てを含める必要はありませんけれども、例えばSMARTのSは具体的な内容を、それから、メジャラブルのMは測定可能、測定って別に必ずしも効果に関わる数量的なものだけではなく、例えば参加者の数とか、いろいろ把握できるものはあると思います。そういう要素を入れながら、コミットメントを作成していくということをしつづつやっていくことで、より具体的で評価しやすい取組が増えていくだろうと考えております。このコミットメントの作成、宣言ということを進めていったらどうかというふうに考えて、この報告書をまとめさせていただきました。

今回は、あくまでこの評価専門委員会の関係団体の中での把握ですから、本当の意味で全てを定量的に把握できているわけではありませんが、どうやってこうした定量化を進めるかということの一つの方向性は、今回の検討の中で打ち出せたのではないかと考えております。

簡単ですが、以上で報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○前田参事官（農林水産省） はい。事務局から御説明申し上げます。

資料1－3について御説明申し上げます。

ワーキンググループからの御報告を受けまして、今後の食育目標達成に向けた取組の「見える化」の方策について検討してまいりたいと思っております。食育の関係者が連携・協働して、イベントや取組情報の発信、参加者同士のマッチングや交流の場を提供することを目的としたプラットフォームとして運営をいたしております全国食育推進ネットワーク、これを活用しまして、農林水産省のウェブサイト上に見える化のページを構築することを検討しております。

具体的には、真ん中の①の辺りですけれども、各主体による取組事例を検索しやすい形で全体を定量的に「見える化」するためのページの作成。要は総括的なページの作成。

それから、②といたしまして、①の検索結果、そして各主体の取組が出る形にしますので、その各主体にリンク先を展開すると、各主体でどのような取組を実施しているのか、定量的に「見える化」するための個別のページの作成。

③といたしまして、②の個別のページにコミットメントを掲載できるようにしたいと。コミットメントを作成し表明できるページを作りまして、全体としてこういう形の仕組みを構築いたしまして、来年度から開始していきたいと考えております。

また、これらのページが構築できましたら、食育関係者の皆さんに全国食育推進ネットワークに御登録いただくとともに、コミットメントを作成いただくよう呼び掛けていくということを検討しております。

これらの取組の方針につきまして、本日、委員の皆様方から御意見、御助言を頂いた上で、御了承いただければ、来年度以降、進めていけたらと思っております。

なお、農林水産省のウェブページですけれども、運営上のいろいろな制限、ルール等がございますので、一般的なウェブサイトと同じような機能が使えない場合もありますので、その点、技術的な制約につきましては、前提としてあるという上で御了承いただければと思います。

以上でございます。

○服部座長 武見座長代理からの報告と事務局からの説明につきまして、何か御意見、御質問等がある委員がいらっしゃれば、私が指名いたしますので、適宜挙手をしていただければ、皆さんを指名いたしますので、今後の見える化の方策について、御意見等ございましょうか。何かございますならば、どうぞ挙手してください。

洞口委員、どうぞ。

○洞口委員 洞口でございます。

今、御説明いただいた中で、今コロナ禍の中でなかなかちょっと見える化というのも難しいかなと思いますし、それから、16日のこういうような地震もまた来たということで、ちょっと難しいところもあるかなと思うんですけれども、やはりウェブサイトとかそういうもので発信していくのが一番いいかなとは思いますが、もう少し、やはり震災とかそういうふうになった場合、またコロナもまだ収束していませんので、そういうのも踏まえて、もう少し具体的に、こういうふうにやっていくというようなことが見えればいいかなと思いました。

○服部座長 はい。ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

もしなければ、それでは、ありがとうございます。皆様から頂いた御意見を武見座長代理や事務局とともに相談して、可能な限り反映した形で進めたいと思っております。

4月以降に全国食育推進ネットワークのウェブサイト上に、この見える化のページが構築される予定ですので、委員の皆様にも御案内したいと思います。是非全国食育推進ネットワークで皆さんが登録し、この見える化の取組にお力添えいただければと思っております。

それでは、続いて、議題（2）第4次食育推進基本計画の各目標の達成状況につきまして、事務局から説明を願いたいと思います。よろしくお願いします。

○前田参事官（農林水産省） では、資料2－1を御覧ください。横表でございます。

第4次食育推進基本計画の各目標については、基本計画策定時以降に最新の値が出ているものについて記載をしております。1年経っておりませんので、あるものとないものがございすけれども、できる限り記載をしております。

当省で実施しております食育に関する意識調査のほか、関係省庁で実施している調査結果を記載しております。

資料のとおり、4次計画策定時の値から達成したものは二重丸、一つしかないのですけれども、二重丸。目標値に近づき改善したものは白三角。残念ながら目標値から遠ざかり悪化したものは黒い三角で示しております。

なお、記号の横に星印を付けているものにつきましては、統計的に有意な差が見られなかったということを示しております。

次のページ以降にデータソースとしております調査やその調査項目、またこれまでの目標値の推移等を記載しております。

今年度は、4次計画が始まりまして初年度であること、データソースとしている調査によつては、4次計画作成以降に調査がまだ行われていない場合もありますので、詳細な分析につきましては、関係省庁と連携を取りながら、来年度以降に順次行っていきたいと考えております。

本日は、資料2-1の1枚目の資料に沿って、簡単に御紹介をさせていただきます。

まず、資料の真ん中の辺りですけれども、目標値の⑪、⑫、⑬につきましては、国民健康・栄養調査をデータソースにしておりますが、令和2年、3年とも新型コロナウイルス感染症の影響を受けて調査自体が中止となっておりますので、計画作成時より後の数値は出ておりません。また、目標値の⑯につきましても現在集計中ですので、現状値をまだお出しできません。

達成状況の欄を御覧ください。先ほどの三角が付いているところです。二重丸の付いている目標、⑫でございます。「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合」につきましては、目標値を大きく超えて達成をしております。白い三角の付いている目標、⑨ですね、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合」、⑩の「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合」、⑮「ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合」、⑯「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合」、⑰「環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合」につきましては、数値は作成時よりも目標値に近づきましたけれども、統計的な有意な差はございませんでした。

下の方ですけれども、⑲「食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合」、その下の⑳「推進計画を作成・実施している市町村の割合」については、統計的な有意な差はあり、改善が見られているところです。

それ以外の目標値につきましては、残念ながら黒い三角となっております。特に大きく変化があったものは、③の「地域等で共食したいと思う人が共食する割合」でございます。昨年度は70.7%でしたけれども、設問中、過去1年間としているため、新型コロナウイルス感染症の影響が少ない期間も含まれておりました。他方で、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を丸1年ほぼ受けておりますため、このような数値として表れたものと受け止めております。

今後の推移を見ていく必要もありますが、黒い三角が付いている目標値につきましては、今後重点的に検討をしていく必要があるものと考えております。

なお、こちらにつきまして、事前に本日御欠席の中澤委員よりコメントを頂いておりますので、この場で私が読み上げる形で御紹介をさせていただきます。

②「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合」が現状値61.7%と目標達成したのは喜ばしいことと思いますが、コロナの影響もあり、人が交流することが制限されていることから、⑰や⑳の割合が減少していることが危惧されました。

⑰は「農林漁業体験を経験した国民の割合」、⑳は「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合」というものです。こちらが減少しております、そちらを危惧されているということです。

コロナ禍にあっても、⑰ですとか⑳を実行しているような事例を示して、目標が達成できるよう留意する必要があると思いました。

といったコメントを頂いております。

これらの⑰、⑳に関する優良事例につきましては、今後、農林水産省のホームページですとか、表彰、白書等への掲載について検討していきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○服部座長 以上のように、事務局から説明いただきました。これにつきまして、何か御意見、御質問等ある委員がいらっしゃれば、私が指名いたしますので、適宜挙手をしていただければと思います。よろしくお願いします。いかがでしょうか。

長島先生、どうぞ。

○長島委員 はい。長島です。ただいまの御報告を頂いているところですが、私ども栄養教諭に直接係る目標5、学校給食における地場産物を活用した取組を増やす、これについては、具体的取組⑥、⑦、⑧の各項目において、いずれも向上につながる結果とならず、大変申し訳なく反省しているところです。

本会では、このことを踏まえまして、結果検証のための調査を行いました。その中で地場産物に係る食に関する指導を行うことが例年より少なかったという答えが調査対象者の半数、49%あります。例年より少なかった集団では、この理由として、長引くコロナ禍、学校給食は感染リスクの高い活動としての側面が非常に大きくて、給食の休止、あるいは簡易給食、主食と具たくさんの汁物1品というような簡易給食ですけれども、そのような実施が比較的長期間にわたったということで、通常の給食運営が困難であったことから、地場産物の活用が減ることにつながったとしておりまして、その97%の栄養教諭が給食時間における直接の食育指導が難しくなったと答えております。

子供自身も黙食という形で、さみしく、みんなと交流しながら食べるという場面が減ってきておりますので、その中で栄養教諭が直接指導を対面で行うということが非常にできにくかったということと、また、約20%は教科等においても全体の授業時間数確保が急務になっており、その中で、ゆとりのない中で食育の充実、確保が非常に難しかったというようなことを挙げております。

しかしながら、今後、デジタルの活用など、効果的な食育の在り方を研究しながら、目標に向かってしっかり取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様、今後とも御指導よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○服部座長 ありがとうございました。

ほかにどなたかいらっしゃいませんか。

それでは、事務局の方から何かございますか。今のよろしいですか。

○武見委員 すみません、私、一ついいですか。

○服部座長 武見先生、はい。

○武見委員 ほかの皆様、よろしいですか。

本当にコロナの影響が非常にある中での、この現状値の把握だなと思うんですけども、例えば、その⑭番、これも数値的にはちょっとだけ減っているという、いわゆる有意な変化ではないんですけども、「生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民」ということが、これも増えてはいないんですが、例えば、コロナの影響が非常に大きいということでは、コロナウイルス感染症の重症化のリスクとして基礎疾患があること、その基礎疾患の中にはこの食塩摂取と非常に関係の多い高血圧とか、あと肥満ですね。肥満そのものが重症化のリスクになるということも、国際的にもエビデンスとして発表されてきていますので、やっぱり逆にコロナのこの状況だからこそ、もっとこの目標にあるようなことに対して意識を向けてほしいという、そういう積極的な啓発が必要だと思います。情報発信だけでも仕方がないかもしれませんが、コロナの状況を十分踏まえた啓発というのも、食育の中でも積極的にやっていくことが必要なのかなと思ひながら、この結果を拝見いたしました。

以上です。

○服部座長 ありがとうございます。今のお話に関して、また何か御質問等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、続きまして、議題の（３）、これに移りたいと思います。事務局から今後の

食育推進評価専門委員会の進め方について、説明をお願いします。

○前田参事官（農林水産省） では、資料3を御覧ください。1枚ものでございます。

当面、御審議いただきたい事項といたしまして、まずは、4次計画に定める重点事項が3つございましたけれども、そちらについてフォローアップを行っていく予定としております。

具体的には、本年度行いました民間の取組の「見える化」の方策の検討結果も踏まえながら、重点事項を中心に施策の実施状況等について御議論いただくということを考えております。また、毎年度、目標値の達成状況を評価し、目標の達成に向けて追加又は強化すべき施策について御議論いただく予定としております。

2といたしまして、5次計画になりますけれども、次期計画の決定までのスケジュール案を記載しております。

令和5年度、再来年度になりますけれども、再来年度に中間取りまとめを行いまして、その結果を踏まえて、令和6年度に第5次食育推進基本計画作成に向けた主な論点等を御議論いただきまして、それを踏まえまして、令和7年度に5次計画の案を御検討いただくという予定としております。

以上でございます。

○服部座長 ありがとうございます。

事務局から説明いただきましたけれども、これにつきまして何か御意見、御質問等ございます場合は、また私が指名いたしますので、適宜挙手を願いたいと思います。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

続きまして、議題の（4）その他に移りたいと思います。

まずは、食育ピクトグラムについて、事務局から説明を願いたいと思います。

○前田参事官（農林水産省） では、資料4を御覧ください。

食育ピクトグラムにつきましては、これまでもこの会議において御承認を頂きまして、皆様にも御活用いただいているかと存じます。

ピクトグラムの説明文につきまして、より適切な表現にするため、一部を修正したいと思っております。

赤字で記載しております部分が変更部分でございます。

3の「バランスよく食べよう」の説明文を「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事で、バランスの良い食生活になります。また、減塩や野菜・果物摂取にも努めましょう。」と

いたしました。

また、5ですけれども、「よくかんで食べよう」の説明を「よくかんでおいしく食べるためには口腔機能が十分に発達し維持されることが重要です。」としました。

なお、前回の食育推進評価専門委員会での座長の御提案を踏まえまして、ピクトグラムと第4次計画の目標値との対応関係も併せて整理いたしまして、別紙ということでお示しております。第4次計画のリーフレットの目標を記載しているページ、裏面を見ていただきますと、そちらにもピクトグラムをこれからは掲載することを予定しております。

以上です。

○服部座長 ありがとうございます。

事務局から説明いただきましたけれども、これにつきまして何か御意見、御質問等がある場合は、また私が指名いたしますので、適宜挙手を願いたいと思います。いかがでしょうか。

御一人挙がりましたね。上岡委員、お願いします。

○上岡委員 はい。御報告ありがとうございました。

服部先生に作っていただきましたピクトグラムについてですけれども、私も大学の方でも活用させていただいているんですけれども、こちらの方で7番の「災害にそなえよう」については、第4次計画の目標値との対応というものがないんですけれども、今いろんな災害が起きている中では、もしかしたら第5次計画の中で、そういった災害に備えるような、今、防災食のようなことも食育の中ではかなり行われているのかなというふうに思っておりますので、そんな内容も今後、追加することを検討されてもいいのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○服部座長 なるほど。ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

田村先生。

○田村委員 はい。内容を一部変えていただいた、5番の「よくかんで食べよう」なんですけれども、もしできたら、「おいしく、安全に」という、「安全に」を追加していただけないかと思うのですが、いかがでしょうか。

といいますのは、窒息等の文言が消えておりますので、口腔機能に関してはそこも重要かと考えておりますが、直接「窒息」というよりは、「安全に」という言葉が入っている

とよいのかなと思いました。よろしくお願いいたします。

○服部座長 ありがとうございます。

それでは、事務局の方で。

○前田参事官（農林水産省） はい。上岡先生、御意見どうもありがとうございました。
また、田村先生も御意見ありがとうございました。

口腔機能の関係につきましては、関係の厚生労働省さんと表現ぶりについて御相談をさせていただき、できれば反映させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

○田村委員 はい。ありがとうございます。

○服部座長 ありがとうございます。

ほかにどなたか。はい、また手が挙がりましたね。瀧本委員、お願いします。

○瀧本委員 はい。ありがとうございます。

すごい細かいことなんですけれども、表現が「ます」で終わっているところと「ましよう」というところがあって、少し気になりました。

3番の「バランスよく食べよう」のところは「努めましょう」で終わっているんですけれども、災害のところも「備蓄しておきましょう」、この何々で「ます」で終わるのと「ましよう」と、何か使い分けってどんな感じなんだろうかとちょっと気になったところです。以上です。

○服部座長 もう一度検討してみます、一度この中身に関しましては。どうもありがとうございました。

○瀧本委員 よろしく願いいたします。

○服部座長 ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは、続きまして、デジタル食育ガイドブックについて、事務局から説明を願いたいと思います。

○前田参事官（農林水産省） それでは、参考資料2を御覧ください。カラフルな資料になっております。

今年度、農林水産省でデジタル食育の取組に関心があり、今後実践してみたいと考えている食育関係者向けに、このガイドブックを作成いたしました。

このガイドブックにおいては、デジタル技術を活用して行う食育活動をデジタル食育と

しておりまして、オンライン会議システムを活用した料理教室などの取組ですとか、食育動画の作成、ウェブサイトやSNSの発信、タブレットを用いた食育の授業などもデジタル食育に当たると考えておりまして、こうしたオンラインイベントや動画作成を行ったことのない方でやってみたい方を対象といたしまして、オンラインイベントを行う際の注意点や動画作成時のコツなどをまとめたガイドブックとなっております。

このガイドブックは、農林水産省のウェブサイト上で公開する予定となっております。コロナ禍において、対面の料理教室ですとか、そういったことができずに困っている方や、動画などを作成したいけれども、なかなかちょっと難しそうで手が出せないでいるような方々に御活用いただければと思っております。

この件に関しまして、本日御欠席の中澤委員よりコメントを頂いておりますので、こちらについても私が読み上げる形で御紹介をさせていただきたいと思えます。

中澤委員より、「大変参考になりました。デジタル食育ガイドブックを使いこなすための講習会などがあるとよいと思いました。」とのコメントを頂いております。

このガイドブックを活用して、来年度以降に全国食育推進ネットワークの取組の一環として、セミナーを実施することを予定しておりますので、そちらでいろいろと御紹介をさせていただければと考えております。

以上でございます。

○服部座長 ありがとうございます。

事務局から説明いただきましたけれども、ガイドブックの作成に当たっては、滝村委員から検討委員として作成に携わっていましたので、是非滝村委員から一言いただければと思います。よろしくお願いします。

○滝村委員 パパ料理研究家の滝村です。

昨年から数カ月にわたって関わってきました、そのデジタル食育というと、かなり範囲が広がるんですけれども、ここの中では大きくフォーカスしているものとしては、オンライン食育イベントということで、オンライン会議システムを活用した料理教室の手法、それと食育動画というものの使い方、SNSを活用したいろいろな情報発信というようなところが実際に書かれているんですけれども、私は特にその中でオンライン食育ですね、オンライン料理教室に関する監修や実施に参加をしました。本当にこの資料を見ていただいたら、3ページ目、「これから『デジタル食育』を始める皆様へ」というふうなところにも書いてあるんですけれども、やはり最初だと皆さん、とにかくやっぱり失敗したり、

大丈夫かなというところがあるので、初めての試みなので、とにかく失敗を恐れずにチャレンジしてほしいと。そのトライ＆エラーをしながら楽しくやっていくという、その心構えができれば一歩踏み出せるのではないかなというふうに思っております。

世の中にこういうものがなかったものが、今回関係者の方たちの努力によって書面化されたというのは、非常に画期的で、私自身もこれを活用していろんな人にデジタル食育のやり方というものを教えていきたいなというふうに思っていたところだったので、先ほどセミナーなんかをされるということなので、是非そういうのが広がっていくといいかなと思いました。

私の肌感覚でいうと、コロナになってもう間もなく2年になるんですけれども、去年の年末ぐらいから今年の1、2、3月にかけて、企業さんや労働組合さんを含めてオンライン料理教室でコミュニケーションとか社内イベントをやりたいというオファーが急激に増えました。これはやっぱりオンライン料理教室だったり、そのデジタル食育というものがだんだんじわじわと広がっていくところで、この4月以降はもっと増えるんじゃないかなと。そうすると、それを運営、実施する人たちのスキルだったりチャンスというものが広がってくると思うので、この4月から是非やりたいと思う人たちがどっと増えてくると思うので、このガイドブックを参考に多くの人がチャレンジできるようになればなというふうに思っております。

とても文字量とか情報量が多いんですけれども、皆さん、是非読み込んで、いろんな必要とされている人たちにお知らせいただければと思います。

以上です。

○服部座長 滝村委員、どうもありがとうございました。

このガイドブックを活用したデジタル食育の推進に向けて、何か御意見、御質問等がございますならば、私がまた挙手をしていただいた方を御指名いたしますので、どうぞ。

どうぞ、北川委員、お願いします。

○北川（和）委員 日本PTA、北川でございます。

デジタル食育ガイドブック、とても分かりやすく、よいと思っています。3次の頃から課題だった広報についてというところがかなり解消されているのではないかと考えています。SNSの発信等もその頃から言われていたものなので、まとまりもよいというふうに思っております。

今回、ホームページでの掲載ということなんですが、紙媒体での配布というのは考えて

いるのかどうかというところをお聞きしたいというところでございます。

以上です。

○服部座長 ありがとうございます。紙媒体、いかがでしょうか。

○前田参事官（農林水産省） はい。紙媒体ですが、予算の制約もございまして、配布は考えておりませんので、ホームページからダウンロードしていただけると大変助かります。よろしくお願いいたします。

○服部座長 ということで、よろしくお願いします。

ほかに何かございますでしょうか。ページ数は多いんですけども、読み込みますと、分かりやすいなということは分かるので、使いやすいかもしれません。

よろしゅうございますか。

それでは、今回第8期の食育推進評価専門委員会の最後の委員会になりますので、よろしければ、最後に今回御意見のなかった方々に一人ずつコメントを頂きたいと思っております。いかがでしょうか。順番に指名させていただきます。

それでは、阿部委員、お願いします。日本栄養士会の常任理事でございます。

○阿部委員 日本栄養士会の阿部でございます。御意見を述べる貴重な機会を頂き、ありがとうございます。

今回、特にこの見える化に当たっては、ほかの団体の様々な食育活動をまとめて拝見できるというか、確認できるということは、非常に大きいことだと思っております。

というのは、日本栄養士会の会員である管理栄養士、栄養士は様々な職域で活躍しておりますので、それぞれの食育を行っている現場の方たちの活動の見える化によって、管理栄養士、栄養士がほかの職種の方やいろんな方たちとネットワークとしてつながり、なお一層、食育を進めることができるということに期待しております。今後も引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○服部座長 ありがとうございます。

上田委員、お願いします。上田委員、いらっしゃいますか。

○上田委員 上田でございます。よろしくお願いします。

今回、大変貴重で、非常に参考になる、今までの議事なんですが、1点、私なりにちょっとなぜだろうというか、よく分からないのが、先ほど資料2-1で、いわゆる第4次食育の基本計画の進捗状況というページがございました。その中の2番で、朝食又は夕食のいわゆる共食の問題なんですが、これは私の感想ですと、コロナ禍でいわゆる外食が非常

に減り、なおかつ家庭の在宅率が上がり、我々のスーパーマーケット協会なんかでも、チェーンストア協会でもいわゆる内食といわれる素材が非常に販売が好調でした。したがって、いわゆる共に食べるという機会が増えたのではないかなというふうに思ったんですけども、これが非常に漸減ですけども、減少しているということが、ちょっとこの理由がよく分からなかったということと、実感とかなり異なる部分がありましたので、ちょっとそこだけ、どんな、背景がもしお分かりになれば、教えていただけたらというふうに思います。

○服部座長 それでは、武見委員の方からお願いいたします。

○武見委員 何かデータに基づいて検討したものを余り見たことがないんですが、今、上田委員がおっしゃられるように、家庭内食に多くの人の行動が動いているということはいろんな調査から出ています。ただ、その家庭での食事をどういうふうに食べているかというところは、実はよく分かっていません。例えば、これは私の個人的な、周辺とかを見ていますと、実はやはりコロナの感染を職業、仕事上とかいろいろなことで気を付けなければいけなくて、実は家庭の中でも一緒に食べるということを避けているというケースは実はあります。つまり、それによって濃厚接触者というようなことが起きますので。

ですので、そうしたようないろいろな考え方が重なった結果、残念ながらほとんど変わっていないというか、少し減ってしまっているという結果になっているのかなと、私はこの結果を見たときに思いました。ただ、検証したわけではないので、個人的な意見です。

○上田委員 はい。ありがとうございました。

多分、この機を逃して、共食を増やす、これほど絶好の機会って一般的にはないと思うので、これは間違いなく増えているんじゃないかなと思ったんですが、ちょっとここだけ非常に思った数字と全然違う結果になったので、疑問に思いました。

以上でございます。

○服部座長 ありがとうございます。

それでは、合瀬委員、お願いしたいと思います。

○合瀬委員 はい。ありがとうございます。

今回のデジタル食育の取組も分かりやすく大変よかったと思います。

ちょっと私、一つ気になっているというか、これは提案でもあるんですが、「食」って極めて個人の営みであるので、自分がここに書いてあるいろんな目標をどれだけ達成したかという、自分なりの達成度というのを分かるような仕組みができないのかな、と考えて

います。というのは、どうしても食育って教育ですから、誰かが誰かに教えるみたいな、上から下へみたいな感じになりがちです。食育に関心を持つ人にいろんなことを伝えるみたいなことではあるんですが、私の食育実践度とか、それから我が家の食育実践度とかって、何か自分に置き換えて考えるようなタイプの取組ができないのかなと。

農林水産省の食料自給率のホームページには、我が家の食料自給率というのがあって、自分が何を食べたかで、ああ、私の、我が家の食料自給率はこのぐらいなんだなというのが分かるような仕組みになっています。

せっかくのデジタルの取組なので、一人一人が自主的にやったことを計り、次につなげられる仕組みが作れないかなという感じがしています。

各目標の進捗状況は、農水省がやっている食育に関する意識調査をベースに出してあると思うのですが、これは多分、いろんな方にアンケートとして聞かれていると思うんですよ。そういうふうに聞かれたときに、ああ、こういうことをやらなきゃいけないんだなというふうに、多分思われると思う。これも一つの食育なんだろうと思うんですけども、自分がこの食育ということにどういうふうに取り組んでいるかを分かるような、何かクイズでもいいんですけども、アプリでこうやると、あなたの食育実践度は何%ですみたいな出るような、楽しんでやれるものが何かできないかなということを、何かつらつらと考えておりました。

以上です。ありがとうございます。

○服部座長 ありがとうございます。このアンケートを取る場合も、これからちょっとその中に今おっしゃられたような聞き取りの仕方をまた反映するような、何か検討をしてみたいのも一つだと思いますので、私どもでまた考えさせていただきます。

事務局の方から何かございますでしょうか。

○前田参事官（農林水産省） 御意見ありがとうございます。

ピクトグラムもありますので、これが一番、今あるツールの中で個人ベースの行動との関係では分かりやすいものかなと思いますので、どういったことができるか、今後検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○服部座長 武見先生もよろしいですか。

○武見委員 はい。そうですね、とても大事な意見だと思いました。

○服部座長 それでは、検討させていただきます。

澤木委員、お願いしたいと思います。澤木委員、いらっしゃいますか。

○澤木委員 全国消費生活相談員協会の澤木と申します。

今回、全国食育推進ネットワークとか、それから食育ピクトグラム、あとデジタル食育ガイドブックなど、作成されておりますので、是非国民の皆様にご覧いただくためにも、しっかりと情報発信していただきたいと思います。

それから、デジタル食育ガイドブックにつきましては、コロナ禍で私も講師などをやっているんですけども、2年間ほとんど食育講座が行われておりませんので、是非このガイドブックを活用したオンライン食育、活用していきたいと思っております。ありがとうございました。

○服部座長 ありがとうございます。私どもも小学生と中学生にこのピクトグラムを見せたいんですよ。そうしたら、SDGsで皆さん勉強されているせいなのかもしれませんが、非常にすぐ理解してくれるんですね。ですから、推進が今まで第3次までやってきたものよりも、文字じゃなくてこのピクトグラムがあるだけでも、象徴的に分かりやすくなってきたというような気がしますので、またこれは反映させていただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、次に菊地委員、お願いしたいと思います。

○菊地委員 菊地でございます。

今日はありがとうございました。ちょっと何回か欠席させていただいたので、デジタル教材とかピクトグラムとか、いろんな新しい取組が始まっていて、本当に素晴らしいなというふうに思いました。

今日、いろいろ目標値の話とかを聞いていてちょっと感じたことなんですけれども、先ほども話があるとおりのコロナの影響であるとか、また今回、ロシアのウクライナ侵攻とか、本当に不確実性が高い時代になってきて、いろんな形でやっぱりこの食育というのは影響を受けるというのを確認をさせていただいたわけなんですけれども、そうしたときに、やはり途中で環境ががらっと変わったときに、数値目標ってなかなか機動的に変えるわけには多分いかないと思うんですね。

そうすると、やっぱり大事なことは、例えばそのコロナであるとか侵攻であるとか、そういったことによってどういう影響を受けたのかという、今回の数値目標って多分かなり外部環境による影響による変化というのが大きいと思いますので、そこをしっかりと分析をしていくということが、何かとても大事なんじゃないかなというふうに思いました。

それが次回の数値目標なんかにもつながるだろうというふうに、ちょっと印象的に思い

ました。

以上でございます。

○服部座長 ありがとうございます。そのとおりで、我々もそれを意識しながら、またいきたいなというふうに思いますので、どうもありがとうございました。

○菊地委員 よろしく申し上げます。

○服部座長 はい。

北川委員、お願いします。北川委員、いらっしゃいますか。

○北川（三）委員 はい。京都府岡田こども園の北川と申します。保育所、認定こども園といった乳幼児教育の現場から参加させていただいております。

今、服部先生がピクトグラムを小学校や中学校の生徒に見せたとおっしゃっていたんですが、幼児教育の世界でもこういうイラスト化されたマークというのは非常に有効ですし、園内でもこれから活用させていただこうと思っております。

また、コロナ禍で保育現場はいろいろ難しいことがたくさんあったのですが、コロナ禍を経験し、手洗い、消毒にしろ、そして、このピクトグラムの先ほどの「よくかんで食べよう」の内容の説明文も変わりました。離乳食の際、特に、かみかみとか、もぐもぐとか、飲み込みの指導をするときに、私の園では栄養士が食育の観点で保育室に入って、保育士らと一緒に指導したり、食べる様子を観察しております。そういうことから、やっぱり対面でしっかり伝えるべき時期には、そういうふうに食育を行っていくということがすごく大事ななと思います。

幼児は、保育室で距離を取って黙食ということで、静かにお行儀よく食べているなど私も感心します。しかし、こういう生活がいつまで続くか分からないですが、乳幼児の世界も食育がやっぱり生活、成長の基本ですので、食育ピクトグラムやデジタル食育ガイドブックも参考にしながら進めていきたいと思います。ありがとうございます。

○服部座長 ありがとうございました。

清水委員、お願いします。

○清水委員 清水です。よろしくお願いします。

私の場合は、牧場がこの間で株式会社になりまして、息子の代になりました。そして、規模も倍になるんですけども、子供たちがこのコロナの間、来た学校が2校だけだったんですね。もう20校以上来るところが2校だけだったんですけども、さっきの目標値を見て、そう余り変わらなかったというのが、私にとってはとてもうれしかった感じがしま

す。どこかで家族で農業体験なり、何かそういうところに出掛けたのではないかなという、ちょっとうれしい気持ちがありました。何かもつとがくっと減るんじゃないかなと思ったんですけども、そこまで減っていなかったのも、これはみんなが農業体験とか、やっぱり食というのに興味があるんだなということを考えたというか、分かった数値でした。ありがとうございました。

○服部座長 ありがとうございました。

それでは、高橋委員、お願いします。

○高橋委員 はい。よろしくお願いいたします。長野県教育委員会の高橋と申します。

私は今回の現状値、進捗状況の6番「栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数」が、コロナ禍前よりも大きく減っていないことに、実は大変驚きました。分散登校であったり、給食が停止になったりと、学校現場では食に関する指導どころではないという声も聞こえる中で、栄養教諭が様々な工夫をしながら取り組んだ成果だと思います。また、文部科学省によるGIGAスクール構想により、児童生徒が一人一台端末を持ち、ICTの活用が進んだことによって、例えば社会科の時間に地域の農家の畑と教室をつなぐ、特別活動の時間に給食の調理場と教室をつなぐ等、たくさんの取組が行われています。

令和4年度は、教職員用の予算も付いたとお聞きしていますので、今後、栄養教諭にも端末が配付されることで、更にICTを活用した食に関する指導が進み、目標達成に近づくのではないかと思います。

また、「ピクトグラム」はオリンピックの開会式で大変インパクトを与えたので、この食育ピクトグラムにも子供たちが関心を示したという話もお聞きしています。現在、食育のお便りなどにも食育ピクトグラムを使ってくださいということを周知しているところです。

今後の食に関する指導の推進は、ICTの活用がキーワードになると思います。学校現場が活用できるたくさんのデータを頂いておりますことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

○服部座長 ありがとうございました。

一応、御指名する方は以上なんですが、ほか、私は声掛かっていないという方いらっしゃいますか。大丈夫ですね。

今、皆さんから御意見いただいたんですけども、結局、コロナ禍の中で非常にこの委

員の方ももちろん非常にそれにお困りになっているけれども、一般の国民が本当にこの100年か200年に一度の大きな感染症、これに対して立ち向かわなきゃいけないという今状況でございますよね。本当にそれに対して、私どもも食育で何ができるのかということをもた考えていかなきゃいけないかなというふうに思っておりますので、是非また皆様の御協力をよろしくお願いしたいと思っております。

今、皆様から御意見いただきましたので、反映させていただくような形になりますが、本当にありがとうございました。

本日、御欠席の委員の方も含め、本日頂いた御意見のほかに何か追加があれば、今週中までに事務局まで御連絡いただきたいと思います。

以上をもちまして、令和3年度第2回食育推進評価専門委員会を閉会いたしますけれども、よろしいですか。

○武見委員 はい。最初に見える化のところでも申し上げましたけれども、本当にそういうコロナの大変な中で、この見える化のためのワーキング、非常に短時間で関係の皆様、御協力いただいたことに、もう一度、改めて最後に御礼申し上げたいと思います。

この成果を次の次年度にしっかりつなげていけるように、またよろしくお願いしたいと思います。本当にありがとうございました。

○服部座長 ありがとうございました。

事務局、最後、どうぞ。

○前田参事官（農林水産省） 本日もいろいろな御意見を賜りまして、ありがとうございました。

コロナ禍、まだしばらく影響が残ると思いますけれども、その中で食育で何ができるかという、今の座長の御発言もございましたので、しっかり受け止めて、皆様と一緒に推進してまいりたいと考えておりますので、引き続き御協力いただきますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

○服部座長 ありがとうございました。

本日も長時間にわたりお付き合いいただいて、本当にありがとうございます。

これで今日の委員会は終了させていただきたいと思います。また次の機会、どうぞ皆さん、また御出席していただいて、大いに議論させていただきながら、前に進みたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

午前11時05分 閉会